



バケツに入ったマダイをスロープに流し、小網代湾へと送り出す児童  
＝三浦市三崎町小網代

# 「大きく育つて」マダイ 稚魚放流

三浦

三浦市立小学 校5校の児童約

130人が13日、マダイの稚魚約2千匹を、小網代湾（同市）に放流した。市の海洋教育の一環。

放流されたのは、ふ化から3カ月半ほどたった約70ミリのマダイ。多くは生後3〜4年ほどで漁獲されて食

卓に並ぶという。児童は「行ってらっしゃい」「元気でね」と声を掛けながら、バケツに入ったマダイを海へと続くスロープに流し、見送った。

放流に先立ち、講師を務めた県の外郭団体「県栽培漁業協会」の担当者が「マダイは20年以上生きるが、何年まで生きるかは分かっていない」「県内で漁獲されるマダイの4割が放流されたもの」と解説した。

ケツに残ってしまわないよう、気を付けた。このまま大きく育つてほしい」と願う、三崎小学校3年の原山遙生さん（9）は「魚が楽しそうに泳いでいた」と笑顔を見せた。（岩崎 千晶）

剣崎小学校4年の石渡遥翔さん（10）は「マダイがバ